

じやりみち

…仮設支援情報…

…一本一本の木にはさらに小さな枝があり、辿っていくと、いろんな結末、いろんな悲しみが待っていた。(略)冬、たくさんの小道のように絡まりあった裸の枝を 空に向かって高々と伸ばしている木を見た。だが道は それぞれが目的を持っていて その木の根っこに帰ろうとしていた。



インディアンの詩より

決闘者小屋のお知らせ

次回はゆっくり話をしようという意味あいと、ここで少しゆっくり物事を考えようという意味あいを兼ねて、お茶会をしようと思います。行き詰まっていること、困っていることなどをケースワーカーさん等を交えて話し合しましょう。

6月12日 18:30～。場所はSVA(曹洞宗国際ボランティア会)の1階。お菓子等持ち寄って下さると嬉しいです。

全体会の報告

前回の全体会では、情報交換と共同プロジェクトについて話し合いました。共同プロジェクトについては、まだ各団体の中での消化が出来ていないのでは？ということから、もう一度「何のためにするのか」と言ったような内容で話し合いました。結論としては、スグにどうこうとは言えないし、いまいちイメージしにくいことなので、少し具体的に動いてみてからもう一度考えていこうということになりました。次回の全体会ではすでに少しずつ企画書が出来てきているので、それをもとに話し合うことになり、また平行して企画書を出していってもらいながら、具体的に動いていこうということになりました。

ガレキは走る

(全国キャラバン日程表)

6/7・8	栃木	宇都宮市	加計本社研修センター4F	ガレキ・パル・シンポ	(市川・石井)
6/15	長野県	松本市	松本市 中央公民館	ガレキ・パル・シンポ	(市川)
6/15	香川県	坂出市		講演会	(石井)
6/18～21	東京都	練馬区	練馬区役所	ガレキ・パル・シンポ	(村井)
6/22	三重県	津市	県立女性センター	シンポ	(石井)
6/23	愛知県	名古屋市	YMCA会館	ワークショップ	(石井)
7/7	東京都	新宿区	早稲田大学	シンポ	(石井)
7/22～25	愛知県	名古屋市		ガレキ・パル・講演会	(石井)
7/27～28	福岡県	福岡市		ガレキ・パル・シンポ	(石井)

★オルセー美術館展&温泉バスツアー
6/11(火)～6/14(金)に13台のバスで行きます。
入浴介護等お手伝いして下さる方募集。
問い合わせ:030-865-6062(鈴木)まで

♣アジアタウン

7/27・28(土・日)10:00～18:00

イベント&フリーマーケット 科学センター跡地にて
ブースが出せるので、イベント参加の方は詳しくは 鷹取カトリック教会へ。
(078-731-8300)

♣市民ボランティア実践講座～地元のやる気を咲かせよう！～

7/6(土)13:00～14:00 7/13(土)10:00～16:00 兵庫福祉センターにて
対象:兵庫県下に在住する市民(隣接地域の方も可) 定員:30人
問い合わせ:大阪YWCA 06-361-2997

イベント 情報

♥からだ・こころ・ほぐし隊

6/9(日)15:00～16:30 車塚仮設住宅ふれあいセンター

◆からだとことばで遊ぶ会

6/8(土)・7/13(土)13:30～16:00 神和教会(灘区大和町)

問い合わせ:からだ・こころ・ほぐし隊 06-308-4016吉田

●移送サービスボランティア

対象者:障害(児)者や高齢者の歩行が困難な人や車いすを利用されている方々。

費用:原則として無料(有料道路・駐車場の費用は利用者負担)

問い合わせ:加古川移送サービス 0794-30-2968

※運転ボランティアも募集中!

< 仮設は今... >

西宮市編

ふっときになったことのつれづれ日記

つづき

前回までの話・・・

「ごめんください」と声をかける。奥をのぞいてみた。手前の部屋には新聞紙が敷き詰められていて、「掃除を始めたところかな？」という感じ。もう一つ奥の部屋を見て私は唖然となった。明るい音楽をかけて、おじさんがふらつく足で・・・踊っている！

何度か声をかけた時、彼は私に気がついてドアのところまでやってきた。やつれて青い顔。「おとつのお電話を頂いた、結ぶのものです・・・。」という、青い顔のままはにかみ笑いをする。「どうもお恥ずかしいばかりで。おかげさまで今日はすいぶんいいんです。」と話してくださった。

仮設住宅入居後、体調不良から突然迎えた異常事態に対して、このおじさんの場合は、近くに住む親類縁者には恥ずかしくてSOSしたくなかったという。「知らせたくない」というホンネを知り、私はドキッとした。定期継続イベントとしてバサーに通い続けている私たちのグループのチラシを見たとき、「ああここならば・・・。」と、わらにもすがる思いで電話をしてくださったらしい。実は私はバサーの継続には力と心をつくしてきたつもりである。「バサーを私たちの緩やかな応援の気持ちを伝える一つの手段にしたい。行政でもなく、住民でもない第三の視点を、仮設住宅を取り巻く環境の中にすえておきたい。」という想いがメリットにつながったということだろう。

おじさんは「今日は一度自分で買い物に出てみようと思います。」と元気そうな様子だった。これも何かの縁だからと正式のお名前を紙に書いて頂いたところ、表札の名前と違う。間違いの理由を聞くと、おじさんが言った。「あのおばあさんが作ってくれたんです。『あんだ、表札ぐらいあげときつ、ここを見つかるのも大変やったんや』って、いきり字を間違えて作りはった。けどそのままにさしてもらってます。」と。何となく嬉しそうだ。

私の勝手な推察だが、この一人暮らしのおじさんは現地ボランティアおばあちゃんの勢いと簡易栄養を受け取ったあと、自分で自分の暮らしを立て直そうという元気が湧いてきたのである。このおばあちゃん、とにかくエネルギーを感じさせる。夫と弟を亡くして、精神科へ通っていたとき、「ボランティアでもしなはれ」と病院の先生に言われて、やってみようかと始めたところ、「すっかりハマッた」のだという。「ハビリ」させて頂いてまんのや」といつものバサーでも元氣いっぱいである。

もちろん今回の場合、おじさんは自分の元気を自分で取り戻したのだが、偶然このおじさんがおばあちゃんと出会えたのは、そして食べ物と元気を手に入れたのは、おじさんが恥も外聞も捨てて「助けて欲しい」といえたことから始まったとは考えられないだろうか。自立できない状態をOKしたというか、「もうダメだ」といえる場所を確保して楽になったように思えてならない。

ところでこのおじさんのお住まいは、西宮界隈のボランティアグループが最も多く出入りしている仮設住宅集合地区のうちの一件。今回のようなできごとに対してほかのグループはどういった対応を工夫するのであるだろうか？また私たちは当面何を準備していくべきなのか？できることなら、地域で或いは被災地全体で、話し合っていきたいと思う。

プロジェクト結ぶ 石井布紀子

継続は力なり（寄稿）

西川幸男

平成7年1月17日未明。阪神大震災が起きました。私は当時アパートで一人暮らしでしたが、一瞬にして全壊してしまいました。その瞬間は、誰がこんなイタズラをするのかと眠気まなこでした。次の瞬間には真っ暗の中であわてて布団を頭からかぶりました。左足に洋ダンスが倒れ、痛みが走りました。窓のサッシが外れ粉々に割れて、布団の上に散乱しました。揺れがおさまってから暗闇の中でズボンをはき、ジャンパーを着て、手探りで靴を履いて外開きのドアを押したのですが、開かないのです（後で気づいたのですが、廊下が波打っているのでドアが開かなくなっていたのです）。そのときは頭の中が真っ白になって自分がこれから何をしてよいか全く判断ができませんでした。外では、大きな声で“ガス漏れしているのでタバコを吸うな、火の気に注意しろ！”という呼びかけをしている声が聞こえていました。壊れた窓から脱出してようやく外に出てみると、2階が1階になっていました。1階は全員が即死でした。1階と2階で住人の明暗を分けたのです。その時、2階のTさんが助けを求めていましたので再び波打っている廊下に戻りました。開かないドアに手をかけて上の隙間を引っ張ると少しドアが開いたので、人が通れるようにしてTさんを助け出しました。

外に出たのはいいのですが、とても寒くてたまりません。ホット缶コーヒーでも思って自販機にいったのですが、停電でダメで、2丁目ほど北へ登りました。すると喫茶店が開店していたのでTさんと2人で入り、コーヒーとトーストを注文して暖をとりました。

飲み終わってお金を払おうとすると、お金を持っていないことに気づいたのです。ご主人に言うと、「お互い様やから今度来店したときに代金を頂く」と言って無料にして下さいました。厚く礼を言って表に出ようとしたら、ご主人が私を呼び止めたのです。

…続く